

東奥日報
2026年(令和8年)8月19日(水曜日) (24)

「学生の実現を支援」

八工大27年度学部学科改編で学長

八戸工業大学は18日、2027年度の学部学科改編に関する記者会見を同大で開いた。現在の2学部2学科を総合情報、先進工学、デザイン工学の3学部3学科とする目的について、船崎一学長は「学生の自律的成長を促し、一人一人の夢の実現を支援するための教育課程編成と組織強化」と説明。デジタルトランスフォーメーション(DX)、エネルギー、インフラ、建築といった地域の発展に不可欠な産業を支える人材育成力・研究力強化を図り、北東北唯一の私立理工系大学として「存在感を高めたい」と意欲を示した。

記者会見で学部学科改編の目的などを説明する船崎学長



船崎学長によると、学部学科改編と同時に▽専門性習得と分野横断的な学びができる13のプログラム制導入▽自然科学、人工知能(AI)・データサイエンス、デザイン思考といった学部共通教育の強化▽学内組織「総合教育研究支援機構(仮称)」の設置―に取り組む。

成長産業やまちづくり、防災などに関わる人材育成・研究力強化とともに、新たにスポーツ情報科学、マルチメディア、航空宇宙に関わる教育研究機能を導入。併せて26、27年度、3学部の特色を生かす設備の設置と施設改修を進め「学生が主役のキャンパス整備」を行う。

同大のこれまでの定員は工学部250人、感性デザイン学部50人で、改編後は3学部各100人となる。

本県や周辺地域の急激な少子化、大都市圏への回帰志向などで近年は定員割れが続いており、船崎学長は「高校生や保護者に、自分の夢や将来進むべき道、いろいろな可能性をじっくり考えてチャレンジする学生を支援できる大学であると強調していく」と述べた。

(千葉真由美)

※「この画像は該当ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」